

平成 22 年度第 1 回日本生理学会将来計画委員会議事録 ●(通算第 23 回日本生理学会将来計画委員会議事録)

日 時：平成 22 年 12 月 10 日

会 場：学士会館 東京

出席者：前田正信（委員長）、鯉淵典之、久保義弘、佐藤多加之、丸中良典、芝本利重、鈴木敦子、内田さえ、
多久和陽、矢田俊彦、岡村康司、関野祐子、野田百美、佐々木拓哉（順不同）

欠席者：上田陽一、石川義弘（順不同）

議 長：前田正信（将来計画委員会委員長）

書 記：内田さえ

資 料：平成 22 年度第 1 回日本生理学会将来計画委員会 資料

議 題

報告事項

平成 20-21 年度の将来計画委員会の活動のまとめを報告した。

1 日本解剖学会と連携し、基礎医学の現状についてアンケートを行い、「日本解剖学会・日本生理学会による『基礎医学教育・研究』アンケート結果について」として日本生理学雑誌およびホームページに発表した。

2 このアンケートの結果を単なる報告として終わらせることなく、具体的な取り組みを行った。即ち、全国医学部長・病院長会議でのアンケート結果の紹介、アンケート結果の別刷りを全国医科大学学長、医学部長、附属病院長に郵送し理解をもとめた。日本学術会議へ提言した。

3 平成 22 年 2 月 17 日に、「基礎医学教育・研究の活性化に対する要望書」を、日本生理学会、日本解剖学会、日本生化学会、日本薬理学会が共同で、文部科学大臣等に提出した。基礎医学 4 学会が協力し、要望書を提出することはこれまでになかったことである。

4 平成 22 年 5 月の盛岡での日本生理学会大会で、「日本の基礎医学教室の現状と将来展望」の題で将来計画委員会からの提案でシンポジウムを行った。日本生理学会会長・理事長、日本解剖学会理事長、日本生化学会、日本学術会議、全国医学部長病院長会議会長、文部科学省高等教育局医学教育課からシンポジストにお呼びし、現在の基礎医学の危機に関する問題解決のためのシンポジウムを開催した。

5 次の協議事項 1~5 についても審議し、継続審議することとした。

協議事項

1 小中高校生に出前講義を行う「生理学アウトリーチ活動」の取り組み

既に各大学・機関が地域と連携して行っているアウトリーチ活動の事例を集約し、教育委員会と将来計画委員会が共同で地域に密着した活動としてアウトリーチ活動に取り組むことで意見が一致した。

2 他学会との共同開催の問題

日本生理学会の更なる活性化のためには、他学会と大会を共同開催することが重要ではないかとの意見で一致した。何年に 1 回共同開催するかについては、頻回に 2 年に 1 回以上との意見や、実際的には共同開催するには多くの困難があるとの意見があった。今後、日本医学会総会開催年に合わせて、また医学会総会開催年以外の年においても、連携可能な他学会との合同学会の開催、が望まれるとのことで意見が一致した。

3 他国の生理学会との共同開催の問題

近年研究水準が急激に上昇しているアジアの他国と活発に連携していく必要性が議論された。すぐに共同開催は実際的にはむずかしく、先ず日中韓合同シンポジウムを充実させることで意見が一致した。また、アジアの若い研究者を中心に travel grant を充実させ、来日した若い研究者に日本の生理学研究室を見学してもらうことで交流を深める必要性についても意見が一致した。日本生理学会大会とは別に開催されている日韓シンポジウム等を日本生理学会大会に組み込んでいくことについて審議した。

4 地方会についての問題

日本生理学会大会を国際化するに伴い、地方会は若手中心で行うことで意見が一致した。地方会で若手同士の交流会を持つことについても議論された。

5 若い生理学会員を増加させる問題

コ・メディカル系大学や、生理学以外の教室からの参加を活性化させる必要性が議論された。生理学会が機能生命科学の研究者が集まる場になるよう、魅力ある学会になるよう努力していく必要があるなどの意見

がでた。この問題は、いかに生理学会大会を充実させるかの問題に行きつくとの認識で一致した。これに関連して、上記3.の共同開催の件、大会学術プログラムについて開催シンポジウムの適正数や発表者の選び方、学術プログラム以外では、開催地（利便性なども考慮すべきなど）や懇親会のあり方などについて、活発に意見交換が行われた。この問題については、非常に大きな問題であるので、今後も継続協議して行くこととなった。

●平成22年度第1回日本生理学会学術研究委員会議事録

日時：平成22年12月11日

会場：損保会館 東京

出席者：大橋俊夫、岡部繁男、加藤總夫、久保義弘（委員長）、佐々木和彦、白尾智明、鍋倉淳一、福田敦夫、
袖崎通介

欠席者：尾仲達史、木村純子、黒澤美枝子

報告事項

1. 今年度の以下の活動内容について、配付資料を示して久保委員長から説明があった。その内容を確認し、常任幹事会にて報告することとした。

(1) 「平成25年度公募から適用する科研費「系・分野・分科・細目表」」について審議し、生理学会からJSPSへの提案書を作成した。

(2) 「平成24年度公募において設定する「時限付き分科細目」の新分野候補」について審議し、生理学会からJSPSへの提案書を作成した。

(3) 日本学術会議の「大型施設計画・大規模研究計画（マスタープラン）」に関する、学術会議・機能医科学分科会（代表：三品昌美先生）の要請に応え、生理学会からの意見・提案書を作成した。

(4) 第88回生理・解剖合同大会における、両学会学術研究委員会担当の、研究費シンポジウム「次世代を担う若手研究者育成に適する研究費制度とは？」を企画立案した。

(5) 第89回大会大会長・大橋俊夫教授に、拡大プログラム委員会の早期の開催をお願いした。

(6) 生理学会員に対し、科研費削減に対するパブリックコメント提出の依頼を、会長・副会長と連名で行った。

2. 第88回生理・解剖合同大会（横浜）のプログラム編成、演題及び参加登録等の準備状況について、大会プログラム委員長の加藤委員が詳細な報告を行った。

3. 第89回大会（松本）の主題、プログラムの枠組み等の開催概要について、大会長の大橋委員が配付資料を用いて報告を行った。特に、新企画として「多分野との交流・連携を訪ねて生理学の新しさを知る」という主題の下、生理学分野外の研究者や識者から生理学や生理学会に対するご意見をうかがう教育講演（仮称）18題を行う予定であることが述べられた。

協議事項等

1. 学術会議・機能医科学分科会（代表：三品昌美先生）に提出した「マスタープラン」関連の意見・提案書には、具体的なプランのみならず総論として委員会の意見を記したので、日生誌にてその内容を紹介することとした。

2. 久保委員長から、機能医科学分科会から、「マスタープラン」の提案に続き、「機能医科学の展望」に盛り込む内容を求められているため、作成にあたり協力をお願いしたい旨、発言があった。

3. 大会での使用言語等について議論を行った.

(1) 第88回大会(横浜)に続き、第89回大会(松本)においても、シンポジウム等の、通常の学術プログラム口頭発表については、発表は英語で行い、質疑応答は、英語、日本語とも可とすること、ただし、例えば男女共同参画問題といった通常の学術プログラムと異なるものはこれまでと同じく例外とすること、ポスター発表の標記は英語とすること、を確認した。さらに、将来の大会の使用言語については、今後も、継続的に議論することとした。

(2) 大橋委員(大会長)から、第89回大会(松本)の教育講演(仮称)の趣旨説明と共に、使用言語を日本語「可」としたい旨、述べられた。通常の学術発表は英語で行うという原則を、学術研究委員会の共通認識として確認した。その上で、分野外から生理学(会)

への意見・提言をうかがうという教育講演(仮称)の趣旨は通常の学術プログラムとは異なるという理解も可能であるため、日本語「可」として良いのではないかという意見が複数出された。また、18演題からなるこの企画が聴衆にとって実り多いものとなるよう、講演の内容別にある程度グループ化してはどうかという提案が出された。さらに、この企画を含めた大会特別企画等は、シンポジウムなど通常の生理学会の学術的プログラムの妨げになることのない範囲内で実施することを求める意見が出された。また、独自色を打ち出しながらも継続性のある円滑な大会の運営を図るために、学術研究委員会が運営の基本指針について大会を超えて伝達していくというこれまで通りの方針について、確認するとともに明文化しておく必要があるのではないかという意見が出された。